

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	京都産業大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キョウトサンギョウダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F126310107500
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	京都府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	国際キャリア開発リサーチC
	学部・研究科等名	国際関係学部
	担当教職員名・役職	三田 貴教授 (国際関係学部)
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	10
	受入企業等数	1
	受入企業等名	特定非営利活動法人パルシック (PARCIC)
	インターンシップの分類	3.海外インターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	受入団体(NGO)の事業実施地の調査、課題事例研究
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部3年
2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 4単位	

要素②	2-5.上記回答内容に関する詳細	<p>「国際キャリア開発リサーチ」科目は、国際的な活動を行う公的機関・民間企業等と連携し、プロジェクト研究や問題解決型研究に取り組み、社会人に求められる自主性、問題解決能力、情報発信能力、他者との協働をするために必要な調整能力などの形成を図ることを目的としている。</p> <p>本プログラムは、東南アジア地域（マレーシア）における日本の国際協力現場を知り、地域が抱える社会的課題に取り組むインターンシップ型の実習プログラムである。現地コミュニティの課題をグローバルとローカルの文脈で理解し、その解決や新たな可能性に基づく展開を目指した取り組みを検討・提案する。活動を通じ、良きパートナーであるアジア諸国の人びとと共に、互いを知り合い、互いの課題に協働して取り組むことのできる人材を養成する。実習地はマレーシアで受入機関は日本のNGOである。</p> <p>2021年度の実習については、新型コロナウイルス感染症により海外渡航が困難であることからオンラインで実施した。実習では、日本に拠点を置くNGOの活動地域の一つであるマレーシア・ペナン州の関係団体ならびにコミュニティと連携して実習を行っている。現地の事業現場と連携団体（沿岸漁業者自助団体）の活動を知るとともに、現地コミュニティの訪問をオンラインで行うことにより、聞き取り調査等の手法を用いて、現地社会の背景と構造を深く知り、現代的課題を抽出する。そのことから、未来に向けて互いに協働しあうための提案を検討する。</p>
	要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。
3-2-1.該当する事前学習の内容		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容		学生に対して、観察調査実習、インタビュー実習を行っている。
3-2-2.該当する事後学習の内容		1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 4.その他
3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容		受入団体から学生へ達成度に関する評価を行っている。
3-2-3.該当するモニタリング		3.その他
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容		インターンシップ期間中に教員がオンラインでセッションに参加して学生の活動状況をモニタリングしている。

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	目標設定ワーク、NGO活動地域（マレーシア）の研究、地域リソース探索実習（実地活動を含む）、インタビュー実習、リスク管理学習を実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	実習を振り返るセッションを実施するとともに報告会に向けた準備セッションを行っている。報告会を行っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	インターンシップ期間中に教員がオンラインセッションに参加して、学生の活動状況や発言状況を一部モニタリングしている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	実習実施前にその時点での自分の状況、ファーストキャリアと10年後のありたい自分、10年後を目指して現時点で獲得しておくべき技能と経験、実習でどのような学びを実現したいかをオンラインツール上に記載する。実施後に、アンケートを行い、問題解決能力、調整能力を含む学びを言語化させている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	一定期間内に5日間以上実施している
	5-3.上記回答内容に関する詳細	前半4日間の実施の後、一か月の期間をあけて、後半4日間の合計8日間の実施期間を確保している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容		

	6-3.上記回答内容に関する詳細	<p>大学と受入団体が協議を重ね実施プログラムの内容を設計し、決定内容について覚書を交わしている。大学による事前学習11回のうち2回に受入団体の職員が授業に参加する形で実施している。受入団体が、プログラム実施中に常にオンラインで参加し、実習のファシリテーションおよび学び・成果の確認を行うとともに、団体の活動地の事情等を逐次解説し深い理解の醸成をし目標達成に導く支援を行っている。受入団体は日報並びに参加度・達成度を評価し、実習の成績ならびにコメントを学生にフィードバックしている。</p>
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	
問い合わせ先	大学等名	京都産業大学
	担当部署名	国際関係学部事務室
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	075-705-3231
	メールアドレス	ir-jim@star.kyoto-su.ac.jp